

## 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	商 学部	身分	教授
氏名	江口 匡太		
NAME	Eguchi, Kyota		

## 1. 研究課題

（和文）衆議院の小選挙区制導入が日本の政治に与えた影響に関する研究

（英文）A study on effects of the 1994 electoral reform of the Lower House

## 2. 研究期間

1年間（ 2020 年度）

## 3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word 程度）

（和文）

本研究は衆議院選挙で小選挙区制が導入された結果、政治家の言動はどのように変容にしたのか、東京都選挙区の候補者の「選挙公報」を用いて計量分析を行った。具体的には、候補者が自分の名前を「選挙公報」上で大きく強調したり、何度も名前を繰り返して表記したりすることに注目し、候補者名の文字の大きさと頻度を測定した。同様に候補者の所属政党の文字の大きさと頻度も測定し、小選挙区導入前後で参議院選挙の候補者と比較した。

旧中選挙区では、自民党候補を中心に同一選挙区で同じ政党の候補者が競合することが珍しくなく、所属政党をアピールしても同一政党の候補者とは差別化できないので候補者個人の能力や業績をアピールすると考えられていた。これに対して小選挙区では同一政党の候補者は一人なので政党間対決の様相が強まり、党首力が重要と言われていた。もし、この通説が正しければ小選挙区の導入によって、衆議院選挙の候補者は個人名よりも政党を強くアピールするはずである。

しかし、差の差推定と呼ばれる方法を用いて参議院選挙の候補者と比較すると、小選挙区導入後、むしろ政党のアピールは減り、個人名のアピールが有意に強まっていることを検出した。実際、衆議院選挙で自民党をアピールする自民党候補者ほど小選挙区では得票率が低いことも観察された。以上から、少なくとも候補者の広報戦略を見る限り、小選挙区の下でも選挙戦は政党中心よりも候補者個人中心で未だ展開されていることがわかった。

（英文）

I investigated the effect of the transition from the multi-member district (MMD) to the single-member district (SMD) system in the Lower House with the campaign bulletin. It was expected that the SMD system developed the party-oriented campaign instead of the individual-oriented one. To confirm that, candidates' name promotion and party appeal are considered with the difference-in-differences methodology. Thus, it has been found that the SMD system promoted candidates' names more and attenuated their party appeal, which is not compatible with what we expected before. The individual-oriented campaign style, therefore, has been more valid in the Lower House.